

第72回日本食道学会学術集会を終えて



第72回日本食道学会学術集会 会長
 加藤 広行
 (福島県立医科大学 特任教授)

日本食道学会員の皆様、平素より大変お世話になり衷心より御礼申し上げます。

平成30(2018)年6月28日29日に、第72回日本食道学会学術集会を栃木県宇都宮市にあるホテル東日本宇都宮で開催させていただきました。お陰様で、780題のご発表と1,300名を超えるご参加をいただき、有意義なご発表と活発なご討論が多数あり、盛会裏に無事学術集会を終えることができました。開催にあたりましては、多大なるご支援とご高配を賜りました皆様に心より御礼申し上げます。

今回のテーマは、「守・破・離(しゅ・は・り)」と致しました。これは、茶道や武道などの日本古来の伝統芸能が発展、成熟していく過程で広く語り継がれてきた言葉であり、この教えは一つの物事を習得する過程の中で重要な教訓を示しております。医学の道においても相通じる心得であり、食道学を研鑽する次世代の若手医師に伝承すべきと考え、本テーマを提示させていただきました。

特別セッションとして、「食道学の伝承 ～守破離の如く～」を企画し、各領域のベテランの先生から若者へのメッセージを頂戴致しました。講演の先生は、我が国の食道疾患の治療成績を世界トップクラスに築き上げた先達の方々で、そのメッセージは次世代の医師にとって大変意義深く、胸に刻まれた内容であったと確信しております。今後もこの領域が更に継続発展していくことを期待するとともに、この教えが伝承されることを切望する次第であります。

主題の内容は、国際シンポジウムのなかで海外招待者として、ドイツのProf. W Schroderと、インドのProf. CS Prameshをお招きして非常に興味深いご発表を頂きました。シンポジウムは頸部食道癌および食道胃接合部癌の諸問題をテーマとして、パネルディスカッションは、ステージIV食道癌、チーム医療、機能性食道疾患の治療などを取り上げました。またワークショップは次世代内視鏡、好酸球性食道炎、化学放射線療法の話について大変活発な討論をいただきました。その他としては、3D映像を用いたビデオシンポジウムが好評であり、急速に普及した胸腔鏡下食道切除術の現状と展望について詳細な議論をしていただきました。本会では初めての3Dセッション会場ということで、大変多くの外科医が発表・討論に参加していました。そして主題セッションでは国際化の一環として、英語スライドを推奨いたしました。さらに次世代の若手医師の育成を目指し、ポスターセッションの座長は2名のうち1名を若手の先生にお務めいただくセッションを設けて、約60名近くの若手に座長をしていただき、参加者に高評価を頂戴しました。

アトラクションでは、日本食道学会学術集会では「初」となります「食道王決定戦(ESO-1グランプリ)」を開催し、多くの施設からの応募をいただきました。予選では30組以上が参加して、決勝戦は全員懇親会で予選の上位6組が最終決戦となりました。大変白熱した決勝戦で予想以上の盛り上がりとなり、優勝は、防衛医科大学校の外科チームとなりました。おめでとうございます。

最後に、第72回学術集会の開催にあたり、貴重なご助言ご支援を賜った先生方、共催企業および運営事務局の皆様、そして福島県立医科大学 消化管外科学講座の教職員ならびに関係者には厚く御礼申し上げます。今回の学術集会の開催では、多くの人々に支えられ



実現できたことを痛感し、感無量な気持ちであります。改めて感謝申し上げます。

来年の第73回学術集会は、九州がんセンターの藤会長のもとで博多の開催予定です。再び皆様とお会いできるのを楽しみにしています。

第72回日本食道学会学術集会 プログラムアンケートについて

プログラム検討委員会 委員長

島田 英昭 (東邦大学 外科学講座一般・消化器外科)

今年も学会終了直後に、評議員の方々にアンケートを実施しましたので、その概要ならびに委員会での討議の概要をご報告いたします。アンケートへのご協力に感謝申し上げます。ご回答くださった先生方の4分の3が外科系、4分の1が非外科系の先生でした。

1. 教育セミナーを学術集会前日に開催することについては、「賛成」「どちらでも良い」を含めて90%が賛成でしたが、10%の方はやはり負担が大きいとのことでした。一定のご賛同を得ていることから当面はこの日程で続けたいと思います。将来的にはEラーニングなどの可能性も模索したいと思います。
2. 会場数については従来通りの3会場開催のご支持は6割で、4割の方は4会場でも良いのではないかとのご意見でした。ご講演内容が充実していることでより充実したディスカッションが期待されているものと思われまます。
3. 参加セッションで評価の高かったものは以下の3セッションでした。内科系、外科系共通のテーマが日本食道学会ならではのテーマとして注目されているのではないかと考えられます。症例に関する白熱したディスカッションも良いテーマと考えられます。
 - 特別企画1 食道学の伝承 ～守破離の如く～
 - 特別企画2 クリニカルボード ～良性疾患検討会～
 - パネルディスカッション1 ステージIV 食道癌はコンバージョン手術ができるか?
4. 今後希望するテーマ:内科系セッションの拡充の希望が多く寄せられました。具体的には、生理機能、GERD、好酸球性食道炎の診断と治療などの良性疾患に関するテーマのご提案が多くありました。1会場では終日内科系・基礎系が参加しやすいテーマで企画してもらいたい、との意見もありました。また、終日ビデオを流す会場があっても良いかもしれない、との意見もありました。面白い試みかもしれません。
5. 海外からの参加を促す目的で発表言語の英語化を促進する方向性についても検討しています。スライドの全面的な英語化については概ね賛同が得られているようですが、言語については特別セッション・上級セッションのみでの英語化とのご意見が多いようです。当面は、一般演題・ポスターについては発表言語を日本語主体とする方向ですが徐々に英語化に進む方向性だろうと思われまます。

内科系、基礎系の医師がより多く参加していただけるように、今後もプログラム検討委員会として、種々のご提案をしてまいりたいと思えます。引き続き、会員の皆様からの忌憚のない自由なご提案を・ご協力をお願い申し上げます。事務局あてあるいは委員長島田英昭あてにどうぞご連絡ください。

「W杯 日本—ポーランド戦～第72回日本食道学会1日目の熱い夜」

亀井 尚(東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学分野)

第72回日本食道学会学術集会は、FIFAワールド杯ロシア大会と時期が重なった。西野ジャパンは予想を裏切り、強豪コロンビアに2-1の劇的勝利、セネガルに2-2の引き分けで勝ち点4とし、2大会ぶりのグループリーグ突破を目前にしていた。この快挙に“大迫ハンパない、西野監督って素敵”と勝手なことを叫んで日本中が盛り上がっていたのはご存知の通りである。

学会1日目の6月28日は、引き分け以上で決勝T進出が決まる運命のポーランド戦。今の日本ならやってくれる、と勝利を共有したい皆さんが、パブリックビューイングを熱望されました。すると、東北大学のH山先生が、なんと見つけてきました、夜の宇都宮で23時からパブリックビューイング、good job!です。

前半は惜しいチャンス、G K川島の好セーブなどあり、一喜一憂しましたが、59分に0-1とされたあと、攻めあぐねた日本は、同時刻のセネガル-コロンビア戦の戦況を見て、パス回しで時間稼ぎの戦略に出た。フラストレーションがたまる複雑な心境で試合を見つめ、このまま0-1でタイムアップ、敗戦でもフェアプレーポイントで決勝T進出が決まった。大杉先生はじめ、

数十名が大画面の前で応援し、祝杯をあげ、盛り上がった熱い夜でした。



第2回サッカー大会の報告

二宮 致(金沢大学医薬保健研究域医学系 消化器・腫瘍・再生外科学)

食道学会におけるサッカー大会は、東京女子医科大学大杉治司先生、九州がんセンター藤也寸志先生、国立がんセンター東病院の大幸宏幸先生、金沢大学二宮 致の4人の幹事により、昨年轻井沢にて小山恒男会長のご協力の元に第1回として始まり、第2回となる今年はワールドカップイヤーであり、宇都宮での食道学会終了後、初心者や女性会員、Dr. Prameshを始め海外からの参加者を加えた27-68歳の49名がグラウンドに集合して行われました。試合はハーフコートの8人制・アイスホッケー方式のフリー交代制で行われ、日頃の運動不足や学会疲れ宴会疲れによる珍プレーも続出しましたが、皆さん学会発表の時は違う満面の笑顔で楽しんだように思います。帰りの新幹線は打ち上げ1次会場と化し、東京駅近郊での2次会も多いに盛り上がり、来年の第3回の開催を誓って無事閉会となりました。今回のサッカー大会にお

いても、学閥や年齢を超えた交流で親睦を深めることができました。わずかではありますが食道学会の発展にも貢献できた様に思います。興味のある会員の先生は、来年九州での第3回大会に是非ご参加下さい。最後になりますが準備にご協力頂いた加藤広行会長に感謝申し上げます。



各種委員会・部会報告

〔会則委員会〕

定款、施行細則の変更について

委員長 神宮 啓一(東北大学大学院医学系研究科 放射線腫瘍学分野)

第72回日本食道学会学術集会 評議員会および社員総会において、「定款」および「定款施行細則第3号」の変更案が承認され、下記のとおり変更されました。(下線部分が変更箇所)

【1.副理事長の設置、役員任期に係る変更】

- ・昨年の理事会において副理事長の設置が承認された。
- ・役員任期に関しては2年という規定があるが、学術集会の開催日時の違いにより変動がある。これまで任期の伸長に対応する規定はあったが、今回、任期の短縮にも対応できるよう変更した。

<定款>

第3章 役員
(種別及び定数)

第13条

2. 理事のうち1人を理事長、1人を副理事長とする。

(選任等)

第14条

2. 理事長及び副理事長は、理事の中から理事会で選定する。

(職務)

第15条

2. 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故がある時または欠けた時は、その職務を代行する。

(任期等)

第16条

2. 前項の規定にかかわらず、任期満了前に、就任後2事業年度が終了した後の総会において後任の役員が選任された場合には、当該総会が終結するまでを任期とし、また任期満了後後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。

第5章 会議及び委員会

(議長)

第26条 理事会、通常社員総会の議長は、理事長がこれに当たる。理事長に事故のあるとき、又は欠けたときは、副理事長が議長となる。通常評議員会の議長は、第44条の学術集会会長がこれに当たる。その他の会議の議長は、会議出席者の中から選出する。

<役員・評議員選任規則(定款施行細則第3号)>

第1章 役員を選任

第1節 総則

(選任方法)

第2条 理事長、副理事長以外の役員を選任は、評議員会に出席した評議員の無記名投票によって行う。委任状による投票は、これを認めない。

第4節 理事および監事の選任

(理事の選任)

第12条

10. 前項の規定にかかわらず、任期満了前に、就任後2事業年度が終了した後の総会において後任の理事が選任された場合には、当該総会が終結するまでを任期とし、また、任期満了後後任の理事が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。

(監事の選任)

第13条

6. 前項の規定にかかわらず、任期満了前に、就任後2事業年度が終了した後の総会において後任の監事が選任された場合には、当該総会が終結するまでを任期とし、また、任期満了後後任の監事が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。

【2.選挙評議員・非選挙評議員の選任に係る変更】

- ・雑誌 Esophagus の掲載論文著者は、他正会員及び準会員より優先して非選挙評議員として選考することが理事会で承認された。

<役員・評議員選任規則(定款施行細則第3号)>

第2章 評議員の選任

第2節 選挙評議員の選任

(評議員の選出)

第18条

4. 選挙管理委員会の委員長及び委員の任期は2年とし、再任を妨げない。満65歳を過ぎると次の総会后にその資格を失う。

(当選の判定)

第24条

3. 選挙管理委員会は、開票後選挙の結果を速やかに公告する。

第3節 非選挙評議員の選任

(選考)

第30条 選考委員会は評議員選挙の行われた後に、本学会の正会員及び準会員の中から業績並びに専門性などの学会運営上の必要性を考慮して、非選挙評議員候補者を選考する。なお、雑誌 Esophagus の掲載論文著者は、他正会員及び準会員より優先して非選挙評議員として選考するよう考慮される。

2. 削除

(選任)

第31条 前条の規定によって選考された非選挙評議員候補者は、理事会の議決を経て非選挙評議員として選任する。

2. 前項によって非選挙評議員を選任したときは、理事長は非選挙評議員の就任承諾を得て、速やかにこれを公告する。

3. 非選挙評議員の任期は、本条第1項の理事会の日に始まり、次の非選挙評議員が選任される前日までとする。

〔選挙管理委員会〕

評議員選挙について

委員長 岡住 慎一(東邦大学医療センター佐倉病院 外科)

来年は、日本食道学会評議員改選の年となり、選挙評議員と非選挙評議員が選定されます。

選挙評議員の要件は、65歳未満、連続5年以上、本学会の正会員で会費を完納した者であり、最近5年間の食道疾患に関連した研究業績(論文発表あるいは学会発表)の点数総計が10点以上とされています(業績点数は論文の場合、著者は4点、共著者は2点とし、学会発表の場合、演者は2点、共同発表者は1点として算出します)。

今回より非選挙評議員については、推薦対象として準会員を新たに加えるとともに、雑誌 esophagus 掲載論文著者を優先的に選考することとなりました(役員・評議員選任規則:定款施行細則第3号第3節第30条)。これらの2点の規約改正は、準会員からも評議員として活躍していただくことによってさらなる本学会の発展を目指し、また、機関誌 esophagus への投稿を益々奨励する主旨によるものであります。

選挙日程は以下の通りです。

〔選挙評議員〕

立候補受付:2019年1月17日(木)から2月5日(火)17時必着

立候補者公示:2019年2月12日(火)

評議員選挙:2019年2月26日から3月15日(金)17時必着(郵送による受付)

評議員選出:2019年3月26日(火)

〔非選挙評議員〕

選考委員会委員による選考:2019年2月12日(火)から3月15日(金)

選考委員会委員長による選出:2019年3月26日(火)以降

〔会誌編集委員会〕

会誌編集委員会報告

委員長 小澤 壯治(東海大学医学部 消化器外科)

会員の皆様におかれましては、本学会機関誌 Esophagus の発展にご尽力賜り、心よりお礼申し上げます。

Esophagus 誌の現状についてご報告いたします。

- 1) インパクトファクター:2016年の0.773より0.218上昇し、2017年は0.991となりました。114/115=0.991の計算式から得られた数値ですが、仮にあと1編引用されていたらインパクトファクターは第一の目標

である1.0となっていました。引き続きインパクトファクターの付与されている雑誌に原稿を投稿の際には、是非とも本誌を引用していただきたく存じます。

- 2) 投稿数：2018年1月1日から10月31日までの投稿数は140編であり、これまでに年間投稿数が最多であった2014年の131編を10月の時点ですでに超えました。本年の年間投稿数は確実に過去最高となります。本誌への文献検索エンジン経由のアクセスは2018年8月まではGoogleが47%と最も多いですが、今春に本誌がMEDLINE掲載となったことから、徐々にPubMedを利用したアクセスが増えているものと推察されます。
- 3) 採択率：2018年8月時点のoriginal articleの採択率は40.3%、全体が41.4%であり、比較的採択されやすい状況です。目標は約30%を目指していますが、目標数字を追い求めるよりも内容を採否を判断する方針には変更ありません。
- 4) 投稿地域：日本、ヨーロッパ、アジアが上位3地域です。特に中国からの投稿論文数が最近増加していますが、これは人口が圧倒的に多く、研究対象患者数も多いためであり、今後は日本の研究者の脅威となるかもしれません。外国に負けてはられませんので、日本からの投稿は大歓迎です。
- 5) 被引用回数の多い論文：取扱い規約、ガイドライン、全国登録集計結果の3大論文が頻りに引用されています。2017年の自己引用率は17.5%と著しく高くはありませんので、健全な引用率といえます。しかし、original articleの被引用率はまだ低いものが多く、今後の積極的な引用が望まれます。
- 6) 委員の定年退任に伴い、本山悟先生と安田卓司先生が新委員に就任されました。委員会の中では若いパワーとして大いに期待されています。インパクトファクターも投稿数も共に上昇中であり、本誌が少しずつですが充実してきています。食道学に関わっていらっしゃる全ての会員の皆様に引き続き育てていただければ幸いです。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

〔NCD部会〕 NCD部会報告

部会長 藤 也寸志 (九州がんセンター 消化管外科)

「食道癌全国登録のNCDへの全面移行」について

ニュースレターNo.23でもご報告しましたが、現在、全国登録委員会が行っている現行の食道癌全国登録をNCDへ移行するための具体的な実装作業を行っており、2019年症例から「前向き登録」が開始できる予定です。この場合、予後を5年後に追加入力していただくことになります。予後入力については、NCD上で各施設へ通知されることになると思いますが、また、外科学会関連以外の外科学会系の会員や内科・放射線科などの非外科学会系からのNCDへの登録も可能になります。是非、積極的な登録参加をお願いします。

さらに、現行の食道癌全国登録は2012年症例まで終わっていますが、この「後ろ向き登録」のNCDへの移行作業も開始しています。現在のところ、2019年調査（2013年症例）から開始できる予定で、従来のCD-Rの郵送による調査は、既に終了した今年度調査が最後になります。ただし、現時点では、この「後ろ向き登録」に関しては、まだ不確定な部分も含まれています。今後、ホームページ・メールや学術集会を通じてアナウンスしていきますので、ご協力、ご理解いただけますようお願い申し上げます。

「2019年度NCD研究課題」について

来年度も、消化器外科学会による「2019年度『NCDデータを利用した消化器外科領域新規研究課題』の公募」が行われる予定です。日本食道学会として、消化器外科学会へ2課題を応募することができます。本年末にアナウンスしますので、早めのご計画をお願い申し上げます。

〔食道外科専門医認定部会〕

新方式の食道外科専門医試験： 書類および手術ビデオ審査を終えて

部会長 安田 卓司 (近畿大学医学部 外科上部消化管部門)

いよいよ新方式の下での食道外科専門医の新規申請が行われ、先日一

次審査としての申請書類および手術ビデオの審査が終了したところです。旧方式よりも診療経験としての術式や業績の条件を緩和しましたが手術ビデオの追加で申請のハードルが上がったと感じ、今年は申請者数が減少するのではと心配していました。でも、予想に反し新規申請は合計33名と昨年の26名よりも多く、手術ビデオに関する問い合わせもほとんどありませんでした。食道外科専門医取得を目指す若い先生にとっては手術ビデオの審査が加わったことでハードルが高くなったというよりも、技術が評価される資格ということで逆に食道外科専門医の魅力が増したような印象を受けました。これに関しては今後も申請者数の動向に注意し、受験者からの意見も参考にしながら、より取得したいと思える、高いstatusを有した専門医資格であることを目指していきたいと思えます。さて、今回の一次審査で気づいた注意点をお知らせしますのでご留意をお願い致します。

1.手術記録に関して

- ✓新規に記録する場合は、「頸部」、「胸部」、「腹部・再建」と分けて術者と助手、指導的助手を明記するようにして下さい。
- ✓上記記載のない登録済み手術記録に関しては、術者一覧表を必ず添付して下さい。一切の手術記録の修正は認めません。
- ✓郭清範囲の記載がない手術記録の提出がありました。評価できませんので郭清LN No.を明記するようにして下さい。

2.手術ビデオに関して

- ✓縦隔郭清を一部省略した手術ビデオの提出がありました。上縦隔から下縦隔まで郭清した(106tblは必須ではない)胸部食道癌のビデオを提出して下さい。
- ✓評価する郭清部分を2症例に分けて指定して提出した申請がありました。原則1症例での通しの手術ビデオを提出して下さい。
- ✓開胸手術を胸腔鏡で撮影する場合、術野が確認できる画像の撮影に留意して下さい。術野が隠れている、あるいは遠景等の理由で手技が見えない、または解像度が悪い場合は評価できません。
- ✓縦隔郭清における基本手術手技の習熟度、術者の主導性、手順や展開の円滑さ、危険行為の有無、そして一定レベルの郭清度をもって評価します。サルベージ手術の提出もありましたが、通常の郭清手技が評価できるビデオの提出をお願いします。

今後も魅力ある食道外科専門医へ向けて努力して参りますので、ご意見、ご要望があればよろしくお願ひ致します。

〔保険診療検討委員会〕

平成32年度診療報酬改訂に向けた準備状況

委員長 渡邊 雅之 (がん研有明病院 消化器外科)

平成32年度診療報酬改訂に向けて、各学会からの新規・改正要望の締め切りが11月30日に迫ってきました。日本食道学会からは新規3項目、改正4項目を要望する予定です。

【技術・新規】

1.食道大動脈瘻手術 (切除のみ)

胸部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術の約2%に発症する食道大動脈瘻に対して保存的治療の死亡率は高く、食道切除が必要とされています。

2.食道切除術 (切除のみ、胸部食道) K525に術式追加

良性食道疾患に対する食道切除再建術はK525として認められていますが、臍胸や全身状態不良で食道切除+頸部食道瘻とせざるを得ない症例があります。また、前回同様に食道大動脈瘻手術が考慮されなかった場合に、変わりうる術式として必要と考えます。

3.食道悪性腫瘍切断術 (消化管再建を伴う) (頸部、腹部の操作によるもの) (ロボット支援)

日本内視鏡外科学会を主学会として共同提案

【技術・改正】

1.ステントグラフト内挿術・胸部大動脈 (食道悪性腫瘍に対して)

大動脈浸潤食道癌に起因する食道大動脈瘻出血に対する救命および大動脈浸潤食道癌に対する食道切除に際して致死性出血予防の目的でのステントグラフトの適応追加を要望しています

2.脊髄誘発電位測定等加算 食道悪性腫瘍切断術に用いた場合の追加術中反回神経モニタリングの食道悪性腫瘍手術に対する適応拡大を目指します

3. 食道悪性腫瘍手術における有茎腸管移植の加算増加
結腸再建や有茎空腸再建の加算増を目指します
4. 食道悪性腫瘍切断術（消化管再建を伴う）（頸部、腹部の操作によるもの）（縦隔鏡下）の増点
前回の改定で認められた縦隔鏡下手術ですが、胸腔鏡や開胸に比較して保険点数が低い扱いとなっていますので、増点を目指します。

食道大動脈瘻手術とステントグラフト内挿術については、食道外科専門医認定施設と準認定施設を対象とした実態調査（アンケート）を予定しています。近日中にプロトコールをお送りできる予定ですので、ご協力をいただければ幸いに存じます。

【研究推進委員会】

研究推進委員会の活動について

委員長 藤也寸志（九州がんセンター 消化管外科）

日本食道学会の研究推進委員会は、2015年度に新設されました。2015年2課題、2016年3課題、2017年3課題、2018年1課題の合計9課題の研究が行われています（参照：食道学会ホームページの研究活動）。その中で、本年6月の第72回日本食道学会学術集会（加藤広行会長、宇都宮）において、「研究推進委員会の活動報告会」として3課題の成果が発表され、現在英語論文の作業がなされています（参照：ニュースレターNo.23）。その他の研究からも貴重な成果が出てきています。

また、本年は食道学会による食道癌全国登録データを用いたパイロット研究として、研究推進委員会が主導する形で、＜日本食道学会による食道癌全国登録データを用いた食道癌に対する放射線治療の全国の実態調査～根治的放射線単独療法例と根治的放射線療法例の比較～＞を行いました。例年900例前後の根治的放射線治療の症例が、5年以上経過後の転帰を含めて登録されてきました。しかし、レジストリーとして生存率の公表はなされているものの、それ以外の登録項目である年齢、性別、放射線照射量、さらには再発率や再発部位などのデータや、それらと生存率の関係などの詳細な検討は全く行われていませんでした。今回、2015年～2017年の登録症例（2009～2011年の治療症例：合計2352例）のデータを用いて、本邦における食道癌に対する根治目的の放射線治療の実態を検討して、多くの新知見を得ました。この結果は英語論文化されるとともに、来年の食道学会学術集会等で発表される予定です。このように、本データベースには多くの重要なデータが利用されないまま埋もれている可能性があります。現在、この食道癌全国登録データを用いて、さらにTNM第8版のステージングの本邦食道癌への適用可能性も検討しているところです。

本年末から2019年度研究課題の公募を行います。「食道学会が主導して世界に情報を発信する」という目標の達成のために、是非積極的な参加をお願いします。

【国際委員会】

国際委員会報告：ISDE2018をウィーンで主催

委員長 北川雄光（慶應義塾大学医学部 外科学）

この度、2018年9月16-19日オーストリア ウィーンにおきまして Society Presidentとして第16回ISDE世界総会を主催させていただきました。日本を離れた遠隔地での開催であり、プログラム構成以外には会長が一切関与できない特殊な状況下で、運営に大変苦労いたしました。皆様のご多大なるご尽力を賜りまして何とか無事開催することができました。プログラム策定、運営に際して多大なるご指導、ご支援を賜りました日本食道学会会員の皆様にご心より厚く御礼を申し上げます。お陰様で日本から265名もの皆様にご参加をいただき、2014年（Vancouver:686）、2016年（Singapore:800）を上回る過去最高の953名にご参加をいただきました。恒例となっておりますISDE-JESジョイントセッションでは、食道疾患治療に関する日本のリーダーの皆様、圧倒的に優れた技術をビデオでご披露いただき、多くの聴衆から絶賛をいただきました。また、今回は、食道胃接合部癌をテーマとして国際胃癌学会とのジョイントセッションを開催し、本学会理事長の松原久裕先生、国際胃癌学会事務局長

の佐野武先生にも貴重なご講演を賜りました。私自身が務めさせていただきましたPresidential lectureではControversies in Esophagology～East and West, Esophagus and Stomach～と題して、欧米とアジアの食道疾患研究の方向性を示し、食道・胃が一体となった上部消化管学の概念を提唱させていただきました。また、井手博子先生、安藤暢敏先生からご提供を頂いた資料を元に、日本を発祥の地とするISDEの歴史を振り返りながらその将来像に関して私見を述べさせていただきました。会場となったウィーン大学は1365年に創立されたドイツ語圏最古の歴史を誇り、胃癌外科手術の父と呼ばれるTheodor Billrothが教鞭をとったことでも知られています。ポスター会場として使用された中庭のBillroth像の前では、多くの参加者が記念写真を撮る光景が見られました。Gala dinnerは荘厳なバロック建築のウィーン市庁舎で開催され、国境を超えた交流の場となっていました。本邦における消化器外科学の父、中山恒明先生が創設されたこのISDEを、消化器外科学に所縁の深いウィーンの地で主催させていただいただけましたことは、食道外科医の一人としてこの上ない光栄と存じております。次回2020年9月のISDEは、パレット腺癌の世界的権威として知られるKansas Medical CenterのPrateek Sharma博士を会長としてカナダのトロントで開催されます。ISDE 創設40周年記念事業も予定されておりますので、日本食道学会の皆様には多数のご参加を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



会告：第73回日本食道学会学術集会

第73回日本食道学会学術集会の開催にあたって



会長 藤 也寸志
(国立病院機構九州がんセンター・院長)

この度、第73回日本食道学会学術集会会長を拝命し、2019年6月6日(木)・7日(金)の両日、福岡市の福岡国際会議場で学術集会を開催させていただきます。多くの先達により築き上げられた歴史と伝統を引き継いで、本学会学術集会の会長を務める機会を戴きましたことを大変光栄に存じます。

メインテーマを「Soil and Seed」 in Esophagology ～食道学のさらなる発展を目指して～ としました。『All Japanで食道学そして食道学会を更に発展させるために「土壌を耕し次世代のための種を蒔く」』ことを目指した学術集会にしたいと思います。ポスターは、本を重ねて作ったトンネルを食道に見立てて「知を集積して道を開いていく食道学会」をイメージしています。

メインテーマの実現のために、「Seed and Soil」 sessionを5つ設けて「土壌作りと種蒔き」の議論をします。特別講演として、基礎医学の立場から国立がん研究センター理事長の中釜齊先生、終末期の悲嘆に寄り添う緩和ケアを实践され「ミトルヒト」の作者である本願寺派善福寺住職の長倉伯博先生のご講演をいただきます。その他に、外科医、腫瘍内科医、放射線診断医・治療医、内視鏡診断医・治療医、病理診断医、さらに多くのメディカルスタッフを加えて、All Japanでの議論をするための企画を多く計画しています。

実りの多い学術集会にするべく精一杯努力したいと思います。皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、全国から多くのご参加を頂けますよう心からお願い申し上げます。



2019年以降の学術集会のご案内

◆ 第73回日本食道学会学術集会

会長：藤 也寸志(国立病院機構九州がんセンター・院長)
会期：2019年6月6日(木)～7日(金)
会場：福岡国際会議場

◆ 第74回日本食道学会学術集会

会長：丹黒 章(徳島大学大学院医歯薬学研究所
胸部・内分泌・腫瘍外科分野)
会期：2020年6月11日(木)～12日(金)
会場：ホテルクレメント徳島、あわぎんホール

◆ 第75回日本食道学会学術集会

会長：岩切 勝彦(日本医科大学 消化器内科学)
会期：2021年6月3日(木)～4日(金)
会場：ヒルトン東京お台場

* 編集後記

本年度の第72回日本食道学会学術集会は加藤広行会長のもと6月28日、29日の2日間、宇都宮市で開催されました。「守・破・離」のテーマのもと、これまで先達の先生方が積み上げてこられた食道学を若い世代の先生方に伝承し、さらに継続して発展させてほしいという加藤会長の思いがあふれた学会であったと思います。今年はサッカーワールドカップの開催時期とも重なり、28日にはパブリックビューイングが、29日には第2回サッカー大会が催され、サッカーファンの先生方には極めて思い出深い学会になったのではないのでしょうか。その様子を亀井尚先生、二宮致先生が本ニュースレターに寄稿してくださいましたので、是非ご一読いただけたらと思います。

また、今年は2年に1回のISDE2018が9月16～19日、北川雄光会長のもと、オーストリアのウィーンで開催されました。日本からも265名の多数の先生方が出席され、ウィーン大学校内のあちこちでhot discussionが行われていました。とりわけ中庭のBilluroth像の前で記念写真を撮る(私も含めて)日本人が多かったように思います。非常に快適な季節でもあり天候にも恵まれ、学会の合間にヨーロッパの伝統を十分に満喫できた方多かったのではないのでしょうか。

本年度も食道外科専門医試験が11月17日に国立がん研究センターで行われます。安田卓司専門医認定部会長を中心に、今年から試験制度の改定が行われました。専門医試験にビデオ審査が加わり、また筆記試験より口頭試験に十分な時間を割り当てることになりました。このような制度の改革には、最初は受験生も審査する先生方も戸惑いを感じるものと思いますが、優れた食道外科医を育成するために必要なことと考えます。そして、今年の結果をふまえてさらに素晴らしい制度になっていくものと思います。

2019年の第73回日本食道学会学術集会は藤也寸志会長のもと例年より少し早い6月6日、7日の2日間、福岡市で開催されます。九州での開催は9年ぶりです。「Seed and Soil in Esophagology」のテーマで非常に興味のある企画を立てておられます。会員の皆様が大挙して福岡の地に「土壌づくりと種蒔き」に行かれることを期待しております。

広報委員会 委員長 大平雅一
委員 有馬美和子、出江洋介、熊谷洋一
竹内裕也、奈良智之、白川靖博
山崎 誠、山辻知樹、村上健太郎

特定非営利活動法人 日本食道学会 事務局

〒130-0012
東京都墨田区太平2-3-13 廣瀬ビルディング4階
電話 03-6456-1339 FAX 03-6658-4233
e-mail: office@esophagus.jp
ホームページ http://www.esophagus.jp/